

ジャパンデー 2026

2026年9月26日（土）

於 リロングウェ ウッドランズ・ファーマーズ・マーケット

9月26日、在マラウイ日本国大使館は、首都リロングウェのウッドランズ・ファーマーズ・マーケットでジャパンデー2026を開催しました。4回目となるこの毎年恒例の日本祭では、日本の文化、伝統、料理等をマラウイの人々に紹介しています。本年は、初の試みとして、月1回のファーマーズ・マーケットの日に合わせて、ウッドランズ会場併設スペースにて実施しました。



このイベントには、主賓であるフェストン・カウパ国防大臣、マラウイ政府高官、外交団及び国際機関の長、マラウイ在住の日本人コミュニティのメンバー、日本に居住または留学経験のあるマラウイ人、学術、文化、スポーツ、メディア、ビジネス関係者、そして日本文化愛好家を含む800人以上が足を運びました。

また、JICA海外協力隊員やビショップ・マッケンジー・インターナショナルスクールの生徒がボランティアとして参加しました。参加したボランティアはイベント全体を通して文化ブースや会場の案内、ステージの設営等に参加し、来場者を歓迎しました。

ジャパンデー2026は、マラウイ警察バンドによる日本の楽曲演奏（『赤とんぼ』、『さく

ら』、『上を向いて歩こう』)で始まり、続いて内藤康司在マラウイ日本国大使による開会の挨拶が行われました。

内藤大使は挨拶の中で、日本とマラウイの長年にわたる友好関係において、人と人との交流と文化理解の重要性を指摘しました。また、両国間の文化交流の継続的な促進に貢献しているすべての方々に感謝の気持ちを述べました。また、主賓のフェストン・カウパ国防大臣は挨拶の中で、マラウイと日本の62年間の外交関係と信頼に基づく交友関係に対し、心からの感謝の意を表しました。さらに、ジャパNDERのようなイベントは、両国間の良好な二国間関係を強化するだけでなく、マラウイの人々、特に若者が日本文化についてより深く学ぶ機会になると述べました。

そのほか、空手や剣道のデモンストレーション、大藤禎晃在外公館料理人によるのり巻き作り実況、新任JICA海外協力隊員によるソーラン節、日本音楽演奏、コスプレショーなど、さまざまなパフォーマンスやデモンストレーションが行われました。また、書道、折り紙、茶道、生け花、伝統的なゲーム、七夕短冊づくり、アニメ、日本料理の体験・展示ブースだけでなく、マラウイで活動する日本企業や団体のブースも設けられ、来場者に日本とマラウイの協力関係やマラウイにおける日本組織の貢献を紹介する機会でもありました。

イベントの最後には、内藤大使による太鼓により、多くの来場者が輪になって盆踊りに参加しました。楽しそうな日本の空間に飛び入り参加する人たちで踊りの輪は大きく広がりました。ジャパNDER2026を通じて、マラウイの人々が日本文化を体験し、日本とマラウイの人と人との絆と友好の輪をさらに広げる機会になりました。

大使スピーチ全文：<https://www.mw.emb-japan.go.jp/files/101093188.pdf>



